

なかの生涯学習大学の休講及び休講に伴う臨時企画の実施について

令和2年度のなかの生涯学習大学について、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための対応が難しいことから開講時期を延期してきたが、下記のとおり休講とすることとし、これに伴い臨時企画のプログラムを実施する。

1. 令和2年度なかの生涯学習大学(当初予定の内容)

- (1) 開催期間：令和2年5月14日～令和3年1月14日
- (2) 会場：なかのZERO大・小ホール及び学習室、各区民活動センター等
- (3) 対象：55歳以上82歳以下の区内在住者
※開講記念講演及び合同学習は、区民向け一般公開とする。
- (4) 受講者数：1学年＝61人(3月5日～4月17日募集)
2学年＝92人 3学年＝99人

(5) 講義内容等

- ① 1学年：学習をとおして仲間づくりをすすめ、中野区について理解を深める。
*講義22回
- ② 2学年：地域で行われている活動を体験し、ゼミ学習をとおして専門テーマを学ぶ。
*講義16回・ゼミ学習6回
- ③ 3学年：卒業後、地域で活動するために、より実践的な学習を行う。
*講義16回・ゼミ学習6回

- (6) 受講料：年間5,000円

2. 休講に至る経過及び休講の理由等

(1) 休講に至る経過

- ① 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言をうけ、開講式(5月14日)及び5月中開催の講座(各学年2回)の中止を決定
- ② 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の解除時期の目処がたたず、解除後に感染拡大防止策として必要な環境を整えることが難しいため、6月開講を見送ることを決定(各学年とも6月に予定の4講座を中止)
- ③ 受講生の意向把握のためのアンケートの結果、68%が1年間の休講を希望

(2) 休講の理由等

①グループワークを組み入れたカリキュラムが組まれているため、ソーシャルディスタンスの確保及び「密閉」「密集」「密接」の3つの密を回避して実施するには、新たな会場の確保が必要となる。また、少人数に分けて行う場合は新たな講師の確保が必要となる。

②年間を通した一連のプログラムを途中からスタートすることとなり、当事業がめざす成果が見込めない。また、実施できなかった講座を今後実施することは、会場及び講師の調整等の面から難しい。

③3つの密の回避を考慮した新たなプログラムを再構築することは難しい。

3. 休講に伴う臨時企画プログラムの実施

新型コロナウイルス感染拡大防止の対応を行いながら、次のとおり実施する。

(1) 目的

①受講生の学習意欲に応え、今後の地域活動につなげる。

②新型コロナウイルスの感染拡大により提起された新たな課題について学び、今後の地域活動につなげる。

③オンライン講義等の試行を行い、外出自粛等になっても継続可能な方法を検証し、地域活動のあり方を見出す。

(2) 実施日程・会場

①日程：令和2年7月16日～12月2日 全14回（予定）

②会場：なかのZERO小ホール、学習室

(3) 対象

令和2年度なかの生涯学習大学受講生のうち希望する方

*164人（うち、オンライン受講51人）

(4) 実施方法・テーマ・内容等

①全学年合同の講義とする。

②「新たな“距離”と守るべき“つながり”」をテーマとし、原則として当初予定のプログラムの会場、講師により行う。

③オンライン受講生モニターを募集し、オンライン実用化を試行する。

④講師による講義のほか、地域で活動する方々に登壇（オンラインも含む）いただき、地域活動につながる内容とする。

(5) 受講料

なかの生涯学習大学では年5,000円の受講料を徴収しているが、

本プログラムについては、新型コロナウイルス感染状況で中断する可能性があること等を考慮し、徴収しないこととする。